

輪ギクのプランターを用いた移動栽培による需要期出荷技術			
[要約] 輪ギクのプランターを用いた少量土壌培地耕で電照終了後露地にプランターごと移動することにより施設を有効に活用でき、盆、9月彼岸、年末の <u>需要期</u> に <u>3回</u> 出荷することが可能になる。この栽培方法は <u>水稲育苗ハウスの後利用</u> にも活用できる。			
農業技術振興センター・栽培研究部・花き果樹分場		[実施期間] 平成18年度	
[部会] 農産	[分野] 高品質化技術	[予算区分] 県単	[成果分類] 指導

[背景・ねらい]

近年、自宅などで日常的に飾られるホームユース用切り花の需要が拡大しており、これに対応した切り花栽培技術の確立が求められている。また、大規模水稲農家や集落営農組織の持つ水稲育苗施設は育苗後そのほとんどが未利用となっており、有効活用が望まれる。

そこで、輪ギクについて、定植後でも移動できるプランターを用いた少量土壌培地耕のメリットを活かして水稲育苗後でも可能な、盆、9月彼岸および年末の需要期出荷を目指したホームユース用ギクの栽培技術を開発する。

[成果の内容・特徴]

ビニルハウスと露地栽培を組み合わせることで、盆、9月彼岸および年末の需要期出荷が可能となる。(図1、表1)。

盆出荷を目指す夏秋ギク‘岩の白扇’については、5月23日の挿し芽でも96%の株で収穫時に50cmの切り花長を得られた。また、他の作型でも60cm以上の切り花長が得られ、ホームユース用として対応可能である(表2)。

消灯時のプランター移動にかかる作業時間は、2人で運搬車を用いた場合30プランター(300株)で20分程度を要する。

[成果の活用面・留意点]

5月下旬の挿し芽でも盆に出荷可能となるので、水稲育苗ハウスの後利用として活用できる。

タイマー、給液ポンプによる液肥の利用により消灯までの施肥・かん水管理が容易となる。露地への移動後、散水のみで管理する場合は、追肥が必要である。

挿し芽床電照および親株電照の設備が、また、年末出荷のためには暖房機が必要である。‘岩の白扇’は出荷予定日の45日前に、‘神馬’は65日前に消灯する。

露地への移動後は白さび病が発生しやすくなるため、予防に努める。

9月彼岸出荷‘岩の白扇’の奇形花については、栄養生長期後期の高温遭遇が発生原因と考えられる。

[具体的データ]

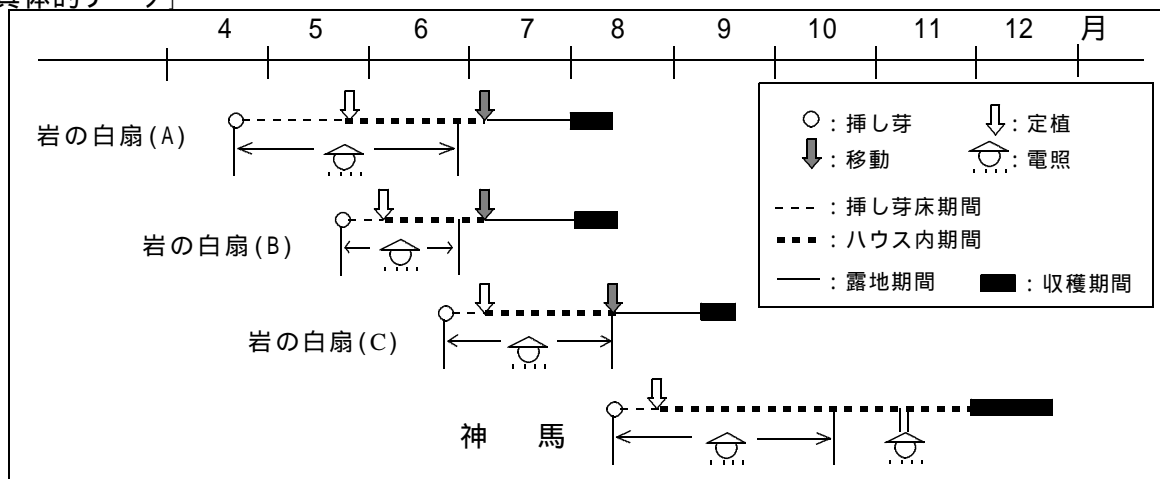


図1 輪ギクのプランターを用いた移動栽培における需要期3回出荷のローテーション

表1 輪ギクのプランターを用いた移動栽培における需要期3回出荷の栽培履歴

試験区 (品種名)	出荷 目標	挿し芽	定植	消灯(移動)	採花期			
					始	1/3採花	2/3採花	終
岩の白扇(A)	盆	4/28	5/24	6/24(7/5)	7/29	8/3	8/6	8/10
岩の白扇(B)	盆	5/23	6/6	6/24(7/5)	7/31	8/9	8/10	8/11
岩の白扇(C)	9月	6/21	7/5	8/10(8/10)	9/11	9/19	9/21	9/22
神馬	年末	8/10	8/25	10/20	11/26	12/18	12/25	12/26

注1)電照：22:00～2:00の暗期中断。神馬については11/6～11/10に再電照を行った。

2)岩の白扇(B)、(C)は親株についても採穂するまで電照を行った。

表2 輪ギクの需要期3回出荷を目指した移動栽培における消灯時の生育と切り花品質

試験区	出荷 目標	消灯時の生育			切り花品質			
		定植後日数	草丈 (cm)	節数	切り花長 (cm)	節数	切り花重 (g/本)	奇形花率 (%)
岩の白扇(A)	盆	31日	42.4	30.3	77.2	44.2	80.2	4.5
岩の白扇(B)	盆	18日	20.4	17.8	56.0	35.5	47.4	0
岩の白扇(C)	9月	36日	42.5	29.7	66.6	45.5	71.3	15.9
神馬	年末	56日	90.9	48.7	135.3	65.4	148.5	0

注1)各区外径74.5×24×12cmの発泡スチロール製プランターに10株/プランターで定植。

2)施肥：定植～消灯までは少量土壌培地耕栽培。0K-F-1のEC0.5dS/m(窒素濃度75ppm)養液を350～500mL/プランター/日、4回/日で給液。露地への移動後は散水ノズルによる手動かん水で管理し、植物の状態を見て適宜追肥(燐硝安加里S604)した。

3)温度管理：神馬のみ10/20～11/6は設定温度18℃で、11/6～収穫終了は13℃で温風暖房機を用いて加温した。

4)奇形花：発生したものは全て扁平花であった。

[その他]

・研究課題名

大課題名：消費者等の多様なニーズに応える高品質・高付加価値化技術の開発

中課題名：安全・安心・高品質な農畜産物の生産技術の開発

小課題名：花きの高品質省力生産技術の開発

・研究担当者名：村木慎吾、田口友朗

・その他特記事項：平成15年度要請課題(湖南地域農業改良普及センター)

平成16年度要請課題(東近江地域農業改良普及センター)